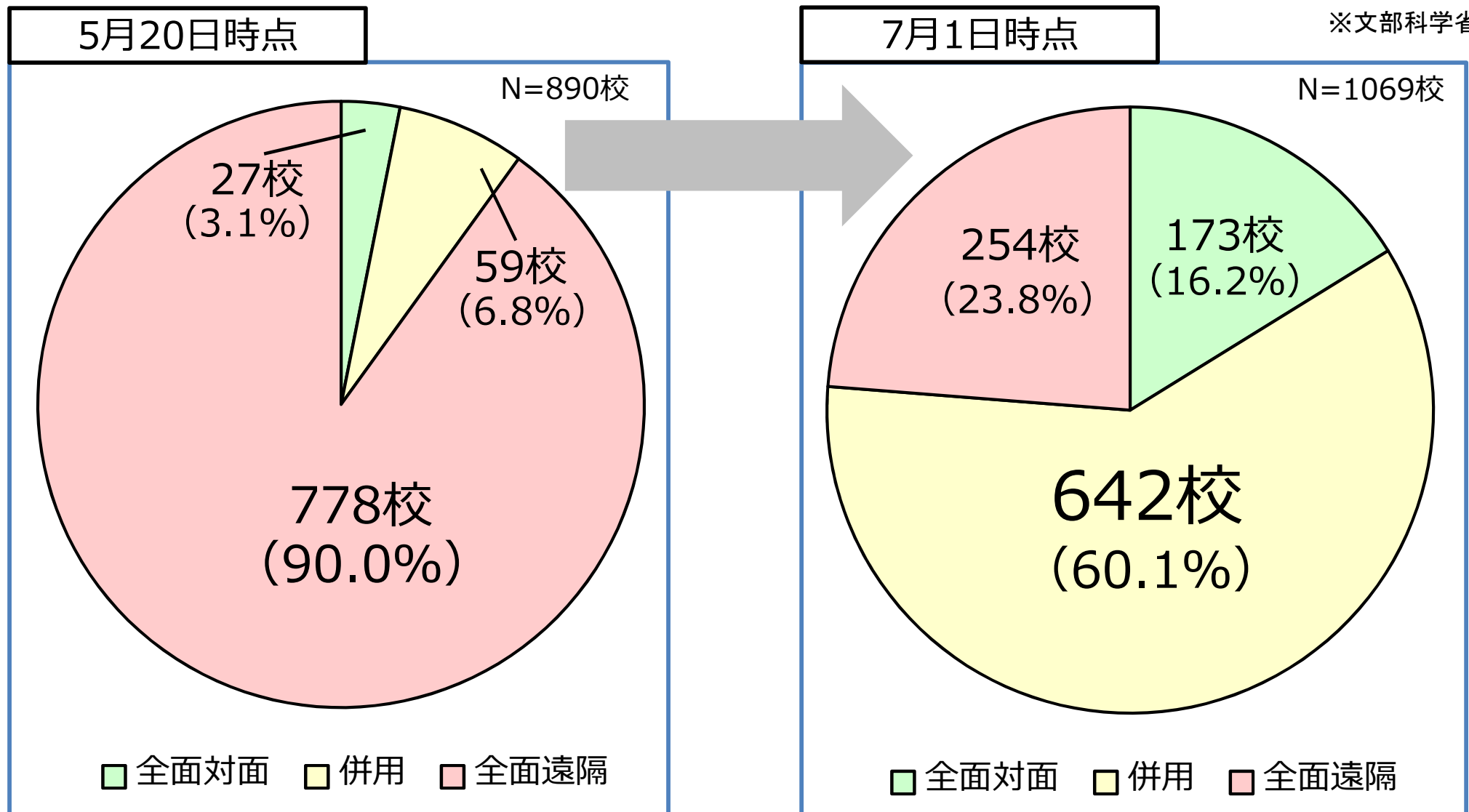


# 大学等における新型コロナウイルス感染症への 対応状況について

# 大学等における授業の対応状況

- 5月時点では、約9割の大学等が全面的に遠隔授業を実施していたが、7月1日時点では、**約6割が対面・遠隔授業を併用**して授業を実施。
- 対面授業のみの大学等、遠隔授業のみの大学等は、いずれも約2割。

※文部科学省調査



# 大学等における対面授業の再開と感染予防の両立

## (令和2年度後期や令和3年度の授業の実施方法の考え方について)

- 大学設置基準第25条第1項（大学における授業の方法について定める規定）は、主に教室等において対面で授業を行うことを想定していること。
- 地域の感染状況や、教室の規模・受講者数・教育効果等を総合考慮し、今年度の授業の実施状況や学生の状況・希望等も踏まえつつ、**感染対策を講じた上での面接受業の実施が適切と判断されるものについては面接受業の実施を検討していただきたいこと。遠隔授業を実施する場合にも、面接受業との併用を検討していただきたいこと。**
- 一度授業の実施方針を決定した後においても、地域の感染状況や、学生の希望等も踏まえ、必要に応じてその実施方法の見直しや更なる改善に努めていただきたいこと。

(令和2年7月27日付事務連絡「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について」により各大学等に周知)

## ➡ **コロナ禍の中でも、感染対策を講じつつ、学生が納得できる質の高い教育の提供が不可欠**

### <文部科学省における対応>

- 各大学等において、対面授業の実施・再開や、学生同士の交流等の機会の設定がなされるよう、**今後国公私大等の各団体を通じて要請。**
- 対面授業と感染対策を両立する**好事例を収集**し、各大学等に横展開。
  - ➡優れた取組が全国に広がるよう情報発信。
- 各大学等における後期授業の実施方針等について**調査を実施**し、全国的な状況を把握。
  - 調査結果は集計の上、各大学等にも提供。
  - ➡各大学等の対応方針の検討に際して活用。

### (参考) 大学における対面授業と感染対策の両立の好事例

#### 千葉工業大学の取組 徹底した感染対策と対面授業の再開

- ・ 正門前に検温所を設け、**入構者の消毒と検温**を実施。
- ・ 対面授業と自宅学習を組み合わせた融合型の授業や、**グループ分けによる分散化**等の工夫で、少人数での対面授業を実施。
- ・ 実習授業や学生食堂などでも密防止を工夫。



#### 山梨大学の取組 感染リスクに配慮した効率的授業

- ・ 学生は対面での着席を避け、間隔を空けた上で**同一方向を向いて着席**。
- ・ 実験授業については、限られた授業回数で所定の実験項目を実施するため、事前に教員が準備するなどして時間を短縮。



## 千葉工業大学（千葉県）

### 徹底した対策を実施し、対面授業を再開

#### ○入口での検温と消毒

- ・正門前に検温所を設け、事前登録者のみ入構、全ての入構者に係員による手のアルコール消毒と、発熱者検知サーマルシステムによる検温を実施



#### ○対面授業とオンライン授業を併用（6/22～）

- ・オンライン授業は継続しつつ、オンライン授業だけでは十分な教育効果が得られない科目等を対象に、対面授業を再開
- ・対面授業と自宅学修を組み合わせた融合型の授業やグループ分けによる分散化などの工夫で少人数での対面授業を実施、教室の消毒・換気、マスク着用等を徹底、校舎は可能な範囲で一方通行化
- ・科目によっては、対面授業をオンラインでもリアルタイムで中継するなど、大学への登校が難しい学生へも配慮
- ・同じ日にオンライン授業と対面授業が混在しないよう、教職協働で時間割の組み換えを実施

#### ○実習授業・学生食堂など密になりやすいシーンでも工夫

- ・製図の授業では、席をあけてソーシャルディスタンスに配慮
- ・学生食堂ではテーブルに間仕切を設置しマスク入力を配布、空席を設け着席位置を指定、次の利用者の着席前に除菌清掃を実施

対面での製図の授業



学生食堂



## エリザベト音楽大学（広島県）

### 実技科目も工夫して、対面で実施

#### ○飛沫を防ぐパーテーションによる、対面レッスン再開（6/1～）

- ・実技レッスンにおいて、飛沫防止用のパーテーションを導入
- ・高さ2メートルのパーテーションの正面部分には透明なフィルムが張られ、学生の演奏技術や音を指導者が直接確認
- ・オンラインでは、音の強弱、音質や音色など微妙な音の違いを正確に聞き分けることが難しいことから生み出された工夫

学生からの風景



先生からの風景



#### ○音楽大学ならではの工夫

- ・全学生に対して、携帯用アルコールジェル、合唱用マスクを配布
- ・ピアノ鍵盤用拭取りクロスを、学内全てのピアノに備付
- ・理論系科目では、オンライン授業の活用や、ホール等の広い教室を活用して対面授業を実施
- ・実技系科目も、オンラインレッスンを活用しできる限り実施

オンラインレッスン



## 同志社大学（京都府）

### コロナ対策を体系的・段階的に実施

- 秋学期開講に向け、移行期間を設定して段階的に再開（6/1～）
  - ・秋学期以降は、WITHコロナに対応し、ネット配信授業を併用しながら対面授業を再開する予定
  - ・感染症拡大防止の観点から、大学独自でガイドラインを策定し入構可能な対象者や使用可能な門扉を段階的に拡大
  - ・図書館や学習室等の学習に関する施設の利用のみでなく、正課外活動の実施や食堂・購買等の利用についても、ガイドラインで方針を周知し、段階的に再開

同志社大学における段階的な対応

フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4
6/1～7/9	7/10～7/27	7/28～8/31	9/1～9/20
【一部入構可】卒業論文等の指導、不可欠な実験(大学院生)の実施等	【一部入構可】期末レポート等の準備、研究活動、許可を得た正課外活動の試行等	【一部入構可】実験・実習等を補完するための対面の取組、期末試験の受講等	【入構制限なし】

- 入構におけるルールの周知・徹底
  - ・学生及び教職員向けに、出校可否を判断できるよう、フローチャートを作成
  - ・キャンパス入講者に、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）等のインストールや、行動履歴の自己記録などの対応を求める
- 入構におけるルールの周知・徹底

## 関西国際大学（兵庫県）

### コロナだからこそ、学生の気持ちを尊重

- 対面・オンラインは学生自身が選択し、学生の気持ちを尊重（6/1～）
  - ・春学期末までの間、授業の受講方法についてキャンパスでの対面授業、ZOOMによる遠隔授業を自己判断で事前登録が可能
  - ・対面授業を選択した学生には受講許可証を配布
  - ・移動中の感染防止のため、一部区間でスクールバスを増便、無料化

対面授業では透明の仕切りを用意



サーモグラフィでの検温

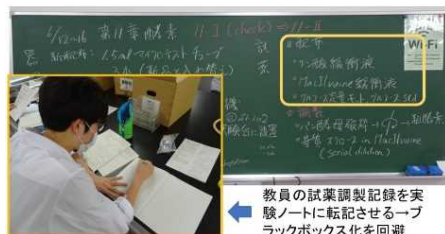


- 学生の「困りごと」を踏まえた新たな措置
  - ・5/6～5/8に「学生状況調査」を実施し、学生の「困りごと」を踏まえた新たな取組を実施
  - ・送料・大学負担による図書貸し出しサービスを開始
  - ・パソコンもしくはWi-Fi受信のためのルーターを持っていない学生には、無償貸出（春学期末まで）
  - ・国やJASSOの制度適用からもれた延納・分納手続き者に対し、大学独自の奨学金を新設
  - ・当座の生活費の支払いが困難な学生に対し、最大10万円緊急貸付
- WITHコロナ時代を題材とした学びの展開
  - ・「新型コロナウイルスが社会をどう変えたか、変えるか」をテーマに、連携大学の教職員・学生とグループでオンラインによる体験学習を開始

## 山梨大学

### 感染リスクに配慮した効率的な授業の実施

- 遠隔授業と対面授業によるハイブリッド授業の実現
  - ・学生を複数の少人数グループに分け、修得内容等に応じて遠隔授業と対面授業を組み合わせる実施。
- 密集を避け、感染リスクに配慮した座席配置
  - ・学生は対面での着席を避け、座席間隔を空けた上で、同一方向を向いて着席。
- 効率的かつ充実した実験授業の実施
  - ・限られた授業回数で、所定の実験項目を実施するため、実験過程の一部を事前に教員が準備し、授業内の実験時間の短縮。
  - ・また、省略された実験過程の内容は、授業内で説明されフォローアップ。

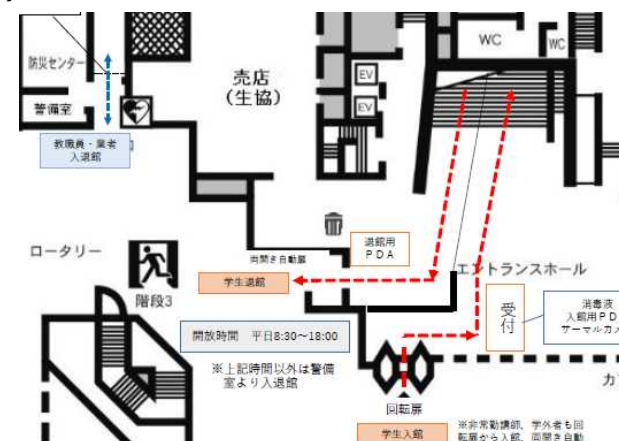


⇒ 新型コロナウイルス感染症の影響により、授業内容が制約される中であっても、大学が工夫を凝らし学生にとって安全・安心な教育環境を整備。また、限られた時間で意欲的・積極的に取り組む学生の姿が見受けられている。

## 宮城大学

### 「新たな生活様式」を踏まえた対面授業の実施

- キャンパスにおける出入構時の管理等
  - ・入館・退館の動線が重ならないよう入退館方法のレイアウトを作成し、周知。
  - ・サーマルカメラによる検温、手指消毒を行い、読取機械(PDA)に学生証をかざして入退館時間を記録



### ○講義室の調整・管理

- ・講義室別に密にならない収容人数を予め設定し、担当教員に使用したい講義室を事前に申請させ、全学で講義室を調整。共有グループウェアを活用し、事務局で一元管理。

### ○対面授業実施の工夫

- ・多目的ホールを改修し、大講義室として授業に活用
- ・講義室の固定机・椅子を撤去し、移動可能な机へ変更
- ・換気のための空調設備や窓の改修などの環境整備

# 新型コロナウイルス感染症対策として講じている大学の遠隔授業に関する特例措置等

- ✓ 文部科学省においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、自宅での遠隔授業が可能であることのルールの明確化や、面接授業の全部又は一部の実施が困難である場合に実施する遠隔授業による修得単位数については、上限への算入は不要とする以下の特例措置を講ずることを各大学に周知（令和2年3月～6月）。
- ✓ 来年度も面接授業の実施が困難な場合も想定されるため、当該特例措置の延長を周知。（令和2年7月）

① 大学設置基準第25条第1項は、主に教室等において対面で授業を行うことを想定しているが、今回の特例的な措置として、面接授業に相当する教育効果を有すると大学等が認めるものについては、面接授業に限らず、自宅における遠隔授業や、授業中に課すものに相当する課題研究等（以下「遠隔授業等」という。）を行うなど、弾力的な運用を行うことも認められること。この際、以下の事項に留意すること。

- ・授業担当教員の各授業ごとの指導計画（シラバス等）の下に実施されていること
- ・授業担当教員が、オンライン上での出席管理や確認的な課題の提出などにより、当該授業の実施状況を十分把握していること
- ・学生一人一人へ確実に情報を伝達する手段や、学生からの相談に速やかに応じる体制が確保されていること
- ・大学等として、どの授業科目が遠隔授業等で実施されているかなど、個々の授業の実施状況について把握していること

② 上記特例的な措置として認められる遠隔授業等は、（中略）60単位の上限に算入する必要はないこと。

③ （中略）課題の提出や定期試験等の代替として行われるレポートの活用による学習評価等の際の不正防止対応方策を講じていること。

## 【概要】

（文部科学省所管）

### （背景・課題）

- 新型コロナウイルスの感染拡大が長期化し、大学・高等専門学校・専修学校において、遠隔授業の実施ニーズが増えているところ、学生が「いつでも・どこでも・誰でも」学修できるよう、デジタル技術を活用した遠隔授業等を積極的に活用できる環境を整備することが必要。

### （対応）

- 実施のニーズがある全ての大学・高等専門学校・専修学校において、遠隔授業（遠隔の双方向授業・オンデマンド授業）が可能となる設備及び体制の整備により、デジタル技術を活用した高度な教育が提供できる環境を整備する。

### （効果）

- 新型コロナウイルス対策のため、大学・高等専門学校・専修学校において遠隔講義を行う設備及び体制を整備し、学生が自宅等において支障なく授業を受講できる環境を構築。
- 大学等の学生が自宅等において授業を受講できる環境を整備し、我が国の新型コロナウイルスの感染拡大を抑制。
- 人生100年時代の到来を見据えた、高等教育機関の学び直し（リカレント教育）環境の整備にも繋がる。

## 事業概要

- 新型コロナウイルスの感染拡大に対応するための遠隔授業の実施に向けて、以下の内容を必要に応じて整備。

### ①遠隔授業実施に係るシステム・サーバ整備

### ②遠隔授業を行うための機材整備

大学等側       ：カメラ・音声機器等

学生側         ：モバイル通信装置

### ③遠隔授業を行うための技術面・教育面の支援体制整備

（機器・ソフトウェアのトラブル対応等のための専門的人材（T A等）の配置など）





## 東京大学

### 早期対応と全学的なサポートの充実

- オンライン授業等に関する情報をワンストップで得られるポータルサイト開設 (3/11~)
  - ・学生への支援や説明会などの案内、トラブル等の問合せ、QAなどの情報を一括発信・対応
  - ・先生方の実践例・参考情報をサイトに掲載し、共有
- 講義開始前後のサポート
  - ・学生に対して：履修・受講に関する案内、情報提供、連絡が取れない学生のフォロー・報告、オンライン授業の問題点を報告してもらい、通信環境の支援（端末、ルーターの貸出）
  - ・教職員に対して：週1～2回オンライン授業情報交換会を実施、学生の受講状況を確認・報告してもらい
- 学生の受講環境への配慮（データダイエットの徹底）
  - ・動画は最小限、スライドシェア、pdfダウンロードを利用して音声中心の配信
  - ・講義の録画、要請に応じてリンクを送付
  - ・同時双方向型：カメラオフ、質問時以外のマイクオフ

⇒これら全学をあげた対応によって、東大生が行ったアンケート（UmeeT）では、およそ75%の学生が満足またはある程度満足と回答

## 愛媛大学

### グループワークの実践

- 同時双方向型（ウェブ会議サービスを使用）
- アイデアソン（グループワーク）を実施
- ZOOMを活用し、全体説明・発表とチーム活動（グループワーク）を切り替えながら実施
- OneDrive、オンライン版PowerPointを活用し、チームで共同作業（複数人で同時編集可能）
  - ・コメント機能を使用し、他チームの学生や教員とのディスカッションを実施
- 教員（複数、学外を含む多地点）は、自由に各チームのセッションに参加し、直接アドバイス
- チームワークを取り入れた教育手法に関する知見・ノウハウを集積
- 複数大学合同型の可能性を実証



※自宅に遠隔授業を受ける環境が無い学生に対して会場を提供

# 新型コロナウイルス対策としての大学等における遠隔授業の取組②

## 大阪大学

### 全学的な支援体制

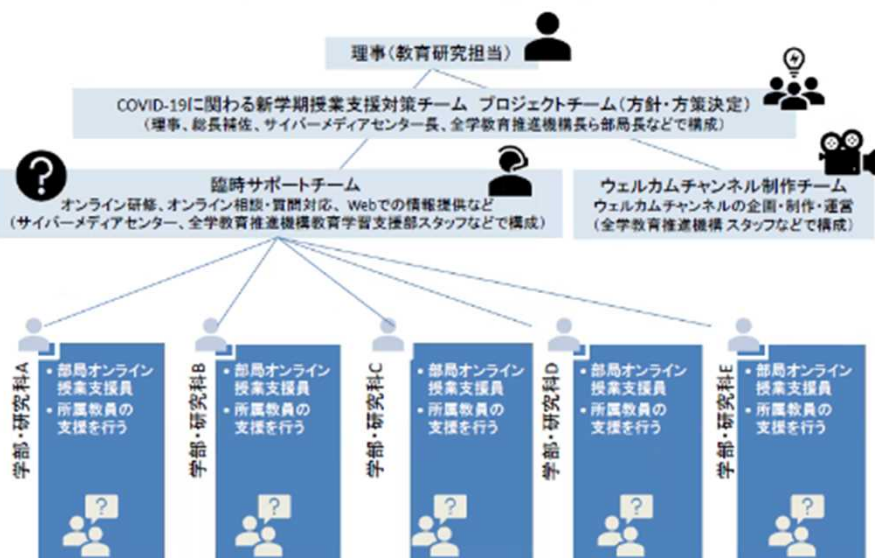


図) 大阪大学におけるCOVID-19に関わるオンライン授業サポート体制

#### ○新入生支援

- ・ 阪大ウェルカムチャンネル（新入生向け動画コンテンツ）の活用や、臨時サポートチームにより、オンライン研修、質問対応など様々な情報提供を実施

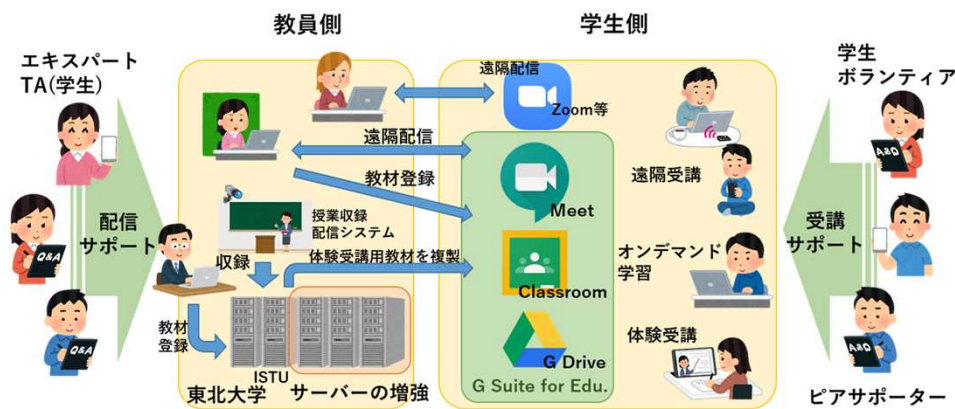


#### ○通信環境支援

- ・ 経済的理由等でネット接続が不可能、あるいは使用可能なネットのデータ総量が著しく少ない学部生・大学院生にモバイル・WiFiルーターを無償で貸与

## 東北大学

### 教員・職員＋学生による全学一体での推進



#### ○ 学生も参画する全学ワンチームでの支援体制

- ・ 遠隔授業TF（プロボスト主導）を中核とした全学推進体制
- ・ ICTに精通した学生エキスパートTAを100名規模で採用
- ・ 学生ピアサポーター（2500人）等による新入生サポートの実施

#### ○ 試行期間（4/20～）の検証を経て 5/7 正式授業開始

- ・ 4/20 にアクセス集中でサーバー障害発生→システムの増強
- ・ 5/7から約4,000科目の授業を配信中  
（学内LMSと外部クラウドによるハイブリッド型）

#### ○ 学生の通信環境への配慮

- ・ 教員のデータダイエットに対する意識向上
- ・ 学生へのWi-Fiルーター無償貸与を300台規模で実施

#### ○ オンライン事務化宣言（6/1）

- ・ 印鑑の廃止、オンライン相談窓口の拡充

## 名古屋大学

### 医学部における取組

- 講義  
情報基盤センターが運用するLMS(NUCT)上にアップロードした授業資料を用いた**事前学習**+リアルタイム型オンライン教育によって学生が適宜質問する**反転授業**を実施。
- 実習  
臨床実習はレポート課題を課して単位保証をした上で、**任意でのリアルタイム型オンライン実習**を実施。  
解剖実習は秋以降に実施するようカリキュラムを組み替え。  
アクティブラーニング型の**オンラインPBL**を実施したところ**学生の討議参加は例年よりも活発**。
- 試験  
**レポート課題に代替**を基本とするが、LMS(NUCT)を使った**オンライン試験**も選択肢に。
- 学生との協働  
**毎週2～3回、全学年の学生代表と共にオンライン会議**を行って、コロナ禍での教育に関する戦略を立案。
- 学内でのFD  
医学部内で定期的に**教育取り組み事例の共有と教育ツールの利用方法に関するオンラインFD**を実施。
- 通信環境支援  
インターネット環境が脆弱な学生の調査は**記名式アンケート**で行い、最後は**電話掛けで100%の把握率**。

## 九州大学

### 障害のある学生への合理的配慮

- 聴覚障害 / 発達障害の場合
  - ・ **ノートテイク**（要約筆記者）の手配（特に同時双方向型）  
⇒リアルタイム授業を行う旨の**事前周知**  
⇒ノートテイク（要約筆記者）への事前の**資料提供**
  - ・ 話したことを文字化（特にオンデマンド型）  
⇒字幕挿入、**音声文字変換アプリ**の使用  
⇒講義の**説明原稿**の提供
- 視覚障害 / 発達障害の場合
  - ・ **PC読み上げ機能**などが使用可能なテキストデータで資料提供
  - ・ 「ここをみてください」など**指示詞のみでの説明をしない**  
⇒**具体的にどこを説明しているか分かるような情報をつける**



## 日本体育大学

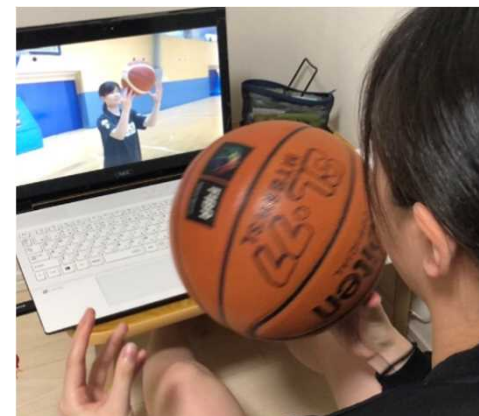
## スポーツ動画像の活用

### ○実技の授業の遠隔化

- ・ 動画配信を用いた授業を実施
- ・ 双方向型で実施する場合、受講生の運動を大きな画面で確認する環境の構築
- ・ LMS等の遠隔教育システムも併用しつつ、指導者向けの画像処理等による情報支援

### ○指導者向けのソフトウェアを活用し、画像処理等による評価サポートの実施も検討中。

- ・ スポーツ競技力向上のための映像情報システムとシステム開発から得られたノウハウを含めた知見が遠隔授業にも役立てられる



## 長崎大学

## SNSを活用した外科教育

### ○ZoomやYoutubeを用いた授業

- ・ 講義はZoomを中心に実施
- ・ 手技はYoutubeを活用して実施（動画は自主作成）
- ・ 閲覧数で学生の反応をみることができる
- ・ タイムトライアル形式の導入（イベント、ゲーム的な工夫）

### ※動画（Youtube）を用いた授業における留意点

- ・ 自宅にあるもの、安価なもので実践可能な内容
- ・ ゆっくり動かしながら解説する
- ・ 手術手技に役に立つ手技であることが重要
- ・ 教育を受ける側の意見を聞く→LINEを活用

手技の様子



Youtubeにアップロードされた動画集

タイムトライアルの様子



※国立情報学研究所主催「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」 (<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/>)  
における事例等を基に作成（令和2年5月20日時点）

※日本医学教育学会主催「医学教育サイバーシンポジウム「COVID-19時代」の医学教育」 (<https://cybersymposium.jp/>)  
における事例等を基に作成（令和2年6月13日時点）

## 早稲田大学

### 規模別によるオンライン授業

- 小規模のゼミ、演習（10人以下）  
事前課題（ビデオやテキスト）を提供した上で同時双方向型の画面共有、発表、質疑応答、指導等実施。
  - 中規模の実習、ワーク（30人程度）  
実技・デモビデオ（オンデマンド/リアルタイム）を提供した上で動画テスト、実技レポートを実施し、TAや学生同士による評価も取り入れる。
  - 大規模のレクチャー中心の講義（50人以上）  
レクチャービデオ（オンデマンド）を提供し、クイズやレポート等を実施し、TAや学生同士による評価も取り入れる。
- ⇒リアルタイム型ビデオ会議は必要最小限で実施。  
（データダイエット等の観点から）

## 苫小牧高等専門学校

### 高専における取組

- 原則同時双方向型（ウェブ会議サービスを使用）
  - ・学生のカメラ・マイク使用は強制しない
  - ・来日できていない留学生も海外から参加
  - ・オンデマンド教材を利用した同時双方向型が好評
- 学生の通信環境への配慮
  - ・ライブ参加できない学生に、録画や講義資料を提供
- データダイエット
  - ・カメラ（映像）は極力使用せず、資料の共有を活用